

## はじめに

### 1) 研究者より

#### 「首都圏を中心としたレジリエンス向上のために欠かせない企業活動」

平田 直 総括（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究センター長、東京大学地震研究所教授）

わが国の首都圏は、世界でも、あるいは日本の中でも、地震の起きる可能性が高いところでは、1995年に阪神・淡路大震災が起きてから、日本中どこでも大きな地震災害の可能性があると科学的に示すため、同年、地震調査研究推進本部が国の組織として立ち上がりました。

ところが、昨年発生した熊本地震では、再び「まさか九州で大きな地震が起こるとは」と言う人が大勢いました。実は、熊本の地域防災計画の中には、熊本地震以前から、マグニチュード7を超える地震が起きて死者が1000人以上出ることが明記されており、それに対する対応も取られていました。一番分かりやすいことと言うと、耐震化率は、熊本県全体では全国平均より少し少ないか、ほぼ全国平均程度で推移しています。中でも熊本市は全国平均より随分、耐震化率は良かったのです。一方で、益城町や宇土市は、残念なことに全国平均をはるかに下回った耐震化しか行われていませんでした。熊本地震では被災自治体の5市庁舎、宇土市や益城町役場が損壊し、機能なくなりました。これは、次に何が起こるか知っていたにもかかわらず、きちんと対応できなかったという例です。首都圏も、みんな地震が来るだろうと思っているから大丈夫かというところではありません。

国や自治体が「こうなります」と言っても、なかなかうまくできません。一方、企業や産業界の方は、自分の会社のBCP（事業継続計画）を作り、それぞれの事業がうまく進むことを考えておられます。

私たちは文部科学省からの補助金を受けて、首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト（for R）において、首都圏の防災力を向上させるための研究を始めました。

最終的にはあらゆる災害に対して首都圏が強固になることが必要ですが、まずは理学的な研究として、建物が強い揺れに対してどのように丈夫である必要があるかという研究を進めています。これが、**図表**の右下にある地震の理学の研究と工学の研究ですが、この2つだけでは都市の防災力を向上することはできません。

そこで、首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上に資するデータ利活用に向けた連携体制の構築を進めています。社会心理学者が中心となり、皆さんがやる気になるような仕組みを作るにはどのようにしたらいいかという研究をします。そして、その研究の成果を今日のような場で皆さんと共有し、首都圏のレジ

リエンス力を向上するにはどうしたらいいかということを議論していきたいと思っています。

「デ活」というのはデータ活用協議会のことで、われわれ防災科学技術研究所は、日本中に 1000 点以上の観測点を持ち、首都圏にはプラス 300 点の観測点を持っています。一方、産業界の皆さんは事業継続計画の中で持っているさまざまなデータがあります。これらの官（気象庁や文部科学省）、学（研究所や大学）、産業界、民間がお持ちのデータや経験、知識をうまく結合することが、このデータ活用協議会の目的です。

The image displays two versions of a Japanese brochure for the 'Data use and application council for Resilience' (デ活). The left version is a full-page layout with a large 'デ活' logo and text. The right version is a smaller, more detailed version of the same brochure, showing a flowchart and more text.

**Left Brochure Content:**

- Header:** 企業も強くなる 首都圏も強くなる (Strengthening companies and the Greater Tokyo Area)
- Project Name:** デ活 (Data use and application council for Resilience)
- Logo:** デ活 (Data use and application council for Resilience)
- Text:** データ活用協議会 (Data use and application council for Resilience)
- 「学」とは (What is 'Academia'):** 産業界や自治体との連携を促し、防災科学技術研究所が大学等の研究者や学生が最先端のデータを活用し、防災・減災に貢献することを目的とした協議会です。
- Members:** 学 (Academia), 産 (Industry), 官 (Government), 民 (Civilian)
- Logos:** NIED, 文部科学省 (MEXT)

**Right Brochure Content:**

- Header:** 企業も強くなる 首都圏も強くなる
- Project Name:** デ活 (Data use and application council for Resilience)
- Logo:** デ活 (Data use and application council for Resilience)
- Text:** データ活用協議会 (Data use and application council for Resilience)
- Flowchart:** A flowchart showing the relationship between '学' (Academia), '産' (Industry), '官' (Government), and '民' (Civilian) in the context of data sharing and resilience.
- Logos:** NIED, 文部科学省 (MEXT)